

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第133号	氏名	足立 圭
学位審査委員		主査	片峰 茂
		副査	松山 俊文
		副査	森内 浩幸
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価 本研究は、養殖魚で流行するベータノダウイルスの細胞内侵入分子機構と感染宿主域を明らかにし、ヒトへの感染の可能性を探ろうとしたものであり、研究目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2. 研究手法に関する評価 ベータノダウイルスのマウスやヒト細胞株への吸着、侵入、増殖を魚類由来細胞 E11 と比較しながら行ったウイルス学的研究手法は妥当である。また、さまざまな薬理的阻害剤を駆使してベータノダウイルスの細胞内侵入機構を推定した手法も妥当である。</p>			
<p>3. 解析・考察の評価 実験結果からヒト細胞においてはベータノダウイルスの侵入に関わる特異的受容体分子が欠如すること示唆した点、細胞内侵入にはクラスリン依存性のエンドサイトーシス経路を用いることを明らかにした点は高く評価できる。また一部のマウス細胞株が感染に感受性であることから種を超えた魚類からは乳類への感染の可能性を考察したことも妥当である。</p>			
<p>以上のように、本論文はベータノダウイルスの感染機構解明の進展に寄与し、さらにはほ乳類への感染の可能性を示唆した点でウイルス学上きわめて大きな貢献をなしたものであり、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			